



# 石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和8年9月2日

第5号

## AIが苦手なこと・人間だからできること

校長 山田 美鈴

長期にわたる夏休みが終了しました。通常の学校生活が再開し、活気ある子供たちの声を耳にしてほっとしているところです。

昭和、平成、令和と時代とともに子供たちの夏休みの過ごし方は一変しました。昨今は熱中症の不安から外に出て遊んだりプールで泳いだりという機会が激減してしまいました。また SNS の急激な普及も相まって、室内にこもり他者と関わる機会が減ってきている状況は、心身の発達にも大きな影響を及ぼしていると考えます。経済発展、地球温暖化の中でいかに子供たちが健全に成長を遂げられるのか、社会全体の課題と言えるでしょう。

SNS はもちろんのこと AI の進歩はあまりにも速く、すでに当たり前のように私たちの生活に入り込んでいます。人間の頭脳と AI の境目は曖昧で、今や悩みの相談は家族や友人ではなく AI に、というケースも多くなっているようです。このような激動の中だからこそ「人間らしさとは何か？」について改めて考えたいと思います。

そもそも人間だからこそできることとは何でしょう？逆に考えて AI が苦手とすること。それは「失敗すること」です。AI は入力された情報に対して素早く正確に回答出力することが得意です。でも人間は失敗する動物です。失敗し振り返って反省し、次こそは！と闘志を燃やしたりするものです。その過程では時に他者に迷惑をかけてしまい、頭を下げる必要があるかもしれません。でもそういった失敗経験を積み、周囲の人の支えに守られることで、思いやりなど利他的な心情を養うことができるのです。また発達段階に応じて物事の善悪といった状況を鑑み、柔軟に判断することは生成 AI では代替不可能ではないでしょうか。

人間は生きていくうえで様々な問題や出来事に直面して、迷い悩んでしまったり、やるべきことを見失ったり、方向違いのことをやってしまったりすることがあります。人間は完璧ではありません。皮肉なようですがむしろその不完全さがあるからこそ人間らしさではないでしょうか。感情があるからこそ失敗を悔やみ苦悩し、時には涙を浮かべます。「次こそは」と汗をかきつつ歯を食いしばり、それでも諦めずに前を向いて進んでいく。失敗や負けるという経験が強さや逞しさにつながり人間らしさを生むのです。

先行き不透明な時代と言われますが、誰にとっても挫折や失敗はつきものです。しかし人間だからこそ、それをチャンスに転じることができます。

練馬区立中学校では 2 学期から生成 AI を活用した教育活動を展開してまいります。今や生成 AI を避けて通ることはできません。大切なことは生成 AI の利便性を理解しつつも、そこに頼りすぎて自分で物事を解決していく意欲を失ってしまったり、すべてを信じ込んでしまったりという完全依存にならないことです。

学校の教育活動では、失敗を恐れず仲間と協力して判断し解決していく力や思いやりの心を大切にしています。あらゆる場面で生徒一人一人の良さや可能性を見出し、成長につなげてまいります。

いかなる時代にあっても、生成 AI が人間を支配することはできません。失敗を繰り返しながらも諦めず何度も挑戦し続け、成長する生徒たちの育成に引き続き取り組んでまいります。